

『北海道の記念保護樹木』出版事業の概略について

私は2015年に樹木医となり、先輩樹木医のように早く的確に樹木診断ができるようになりたいと思い、多くの経験を積もうと考え2年をかけて道内各地の巨樹・名木を診て歩きました。この時から私は、巨樹・名木の魅力にとりつかれました。そして、もっと多くの人に巨樹・名木を知ってもらいたいと思い、このとき診て歩いた巨樹・名木を2018年に写真集として『2018 北海道の巨樹・名木 150選』（写真1）を自費出版しました。この中には、今回、出版した記念保護樹木も数十本載っています。しかしこの時、残念ながらすべての記念保護樹木を診て歩くことはできませんでした。

次に、巨樹・名木などを診て歩くなら北海道知事が指定した記念保護樹木と思っていました。そして、次の目標として北海道知事が初めて記念保護樹木を指定した1972年から半世紀の節目を迎える2022年までに記念保護樹木をすべて診て歩き、再び、その魅力を多くの人に知ってもらうために写真集を出版できればと考えていました。

2020年春から2年かけて記念保護樹木を診て歩こうと計画を立てていた矢先に、新型コロナウイルスが世界中でまん延したため、その影響を受けて私の予定もくずれ、1年遅れの2021年4月から記念保護樹木を診て歩くハードなスケジュールとなりました。

現地での写真撮影や樹木診断・調査（幹周、樹高等）は、休日等を利用して延べ40日を超え、車の走行距離も15,000kmを超えましたが、この年の11月までに106件すべてを診て歩くことができました。このうち1件は既に枯れていたため、今回の『北海道の記念保護樹木』（写真2）では105件を紹介しています。

写真集の作成では、現場で撮影した写真や樹木診断・調査データを自宅に持ち帰っては、パソコン内で写真の編集やデータ整理等の作業を繰り返し行い、

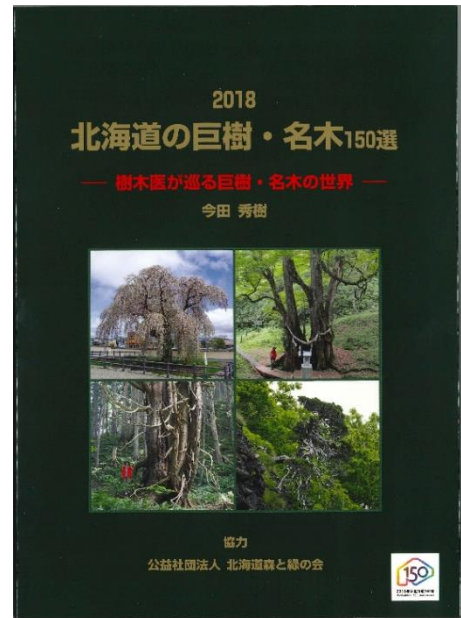


写真1 『2018 北海道の巨樹・名木 150選』

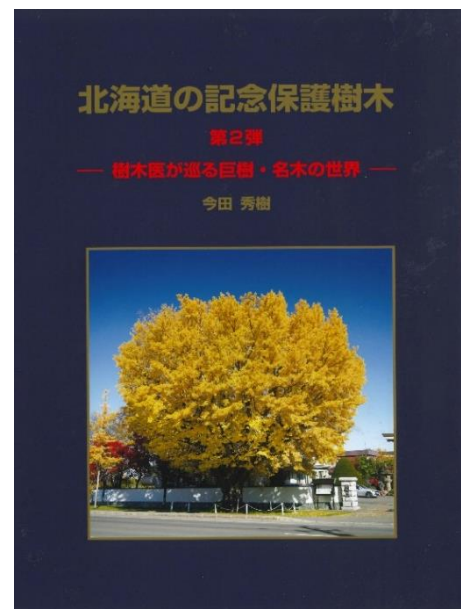


写真2 『北海道の記念保護樹木』
105件の樹木を紹介

11月上旬、ほぼ原稿が出来上がったところで印刷会社に原稿を渡し、数回の校正を経て、2022年3月下旬に写真集が完成しました。

写真集は1件を1ページ(一部、見開き)として、その中に現在の写真や幹周、樹高、由緒・由来等のデータと合わせて、指定当時の写真と幹周、樹高等のデータを載せています(写真3)。その構成は、①名称、②樹木の名前(樹種名)と分類、学名、別名、漢字名、アイヌ語名、③現在の樹木写真、④樹木のデータ(所在地、所有者、幹周等)⑤由緒・由来等、⑥位置図、最寄りの駅等からの距離と移動時間、⑦指定当時の写真とデータ(幹周、樹高等)の7つで構成しています。

巻末には資料編として、①幹周(直径)・樹齢・指定件数別順位表、②記念保護樹木一覧表、③北海道の巨樹・名木に関する主な書籍等を付け加えて、1冊の写真集『北海道の記念保護樹木』となっています。

写真集では、現在と過去の記録が一目でわかるように1ページの中にコンパクトに収めた興味深い一冊になったと思っています。写真集を見て記念保護樹木に興味を持ってもらい、これらを巡る旅に出発していただければ幸いです。

2022年3月末に発行したばかりで、現在、国、北海道、市町村、図書館、森林・林業関係団体等に400部以上の寄贈をしている段階です。この写真集が多くの人の手に触れて記念保護樹木の存在やその魅力を知ってもらうことを目的に作成しましたが、現段階では、この写真集がどの程度の効果、反響等があるのかは良くわからない状況にあります。今後、多くの人の手に触れることにより、その効果、反響等が現れることを願っています。

最後になりましたが、今回、一般財団法人 前田一步園財団の助成をいただき写真集を出版することができました。感謝申し上げます。



写真3 現在と過去の写真やデータを1件1ページに載せて比較した写真集